

「外国人材等支援推進条例(仮称)」の策定について

私が副会長を務めている、県議会の「外国人材・留学生支援推進議員連盟」(※)では、外国人材の積極的な受け入れと多様な支援の実現に向け、議員発議による独自条例の策定に取り組んでいます。来年4月の施行を目指し、議連の役員会で条例素案を取りまとめ、6月に開催された議連総会に提案しました。2年以上に渡り、超党派のメンバーで勉強

会や視察等を重ね、その都度侃々諤々の議論を行い、議事事務局や執行部とやりとりを重ねながらも、議員主導で条例づくりを進めてきました。このように超党派メンバーが数年に渡って協力し合い、条例策定の実務を進めるのは、岡山県議会ではレアケースで、非常に意義深い取り組みだと考えています。条例の成立、施行に向け、粘り強く仕事を進めます。

条例素案のポイント

- 目的は、外国人材の積極的な受け入れと多様な支援の実現。県の責務を定めて実効性を持たせ、外国人に「選ばれる県」を目指す。
- 適正な労働環境、日本語教育支援、災害時の対応などを盛り込んだ「外国人材等支援推進計画」の策定を知事に求める。計画の実効性を高めるため、計画に盛り込むべき具体的な取組メニューを、別途、運用指針等に明記する。
- 支援を推進するため、県は「産官学労」の代表者で構成する協議会を設置する。
- 市町村、県民、事業者、教育機関のそれぞれの役割を明記。



条例策定の動きは、地元メディアでも大きく報じられました。

(※)外国人材・留学生支援推進議員連盟

県内で働く外国人労働者や、県内の大学等で学ぶ留学生が、安心して働き、暮らし、学べる環境を整えるとともに、深刻化する労働力不足に対応することを目的に設立された、有志の議員で構成する議員連盟。会長=中塚周一副議長(自民党)、事務局長=河野慶治県議(同)。副会長=江本公一県議(同)と高橋徹(民主・県民クラブ)。このほか、公明党、共産党の議員の役員(幹事)に名を連ねる。54人の議員が参加し、党派を超えて課題解決にあたっています。

【高橋とおるの視点】

外国人材の受け入れ促進を掲げる都道府県条例は全国でも例がないそうです。先進的な内容はもちろんですが、その策定作業の進め方も岡山県議会としては画期的だと思っています。

右の写真はある日の役員会の模様です。この日の役員会では、外国人労働者や留学生をめぐる課題や、その対策などについてブレインストーミングを行い、そこで得た情報をポストイットに書き出して、同じ系統の情報をグループ化する「KJ法」という手法を使って論点整理を行いました。所属政党をベースにした党派色が強い県議会で、超党派メンバーが、このような形で意見をまとめ、条例をつくるという試みは異例(少なくとも私は初めて)です。党派を超えて議論し、よりよい政策を練り上げることは議会本来の姿であり、政策立案の現場に携わる高揚感を感じながら、議論に参加しました。

議員発議の条例は、理念中心の抽象的な内容になりがちですが、今回の条例は、単に理念を語るだけでなく、計画策定を知事に求めたり、施策推進のエンジンとなる産官学労による協議会設置を明記するなど、実効性を担保する内容になっています。

来年4月の施行に向け、副会長として最後まで汗をかきたいと思っています。



岡山県議会議員 高橋とおる

県政レポート Vol.46



発行:高橋とおる事務所 発行日:2024年7月5日
〒703-8271 岡山市中区円山118 サンライズビル201
TEL (086) 238-7775, FAX (086) 238-7785



岡山県議会「5月臨時会」報告

議長に久徳大輔氏、副議長に中塚周一氏を選出。

岡山県議会は5月15日、臨時会を開き、新たな議長に久徳大輔氏(きゅうとくだいすけ)(55)=高梁市、副議長に中塚周一氏(なかつつかしゅういち)(51)=倉敷市・都窪郡=を選びました。両氏ともに最大会派の自民党岡山県議団に所属。任期は申し合わせにより1年の予定です。

正副議長選は全55議員が投票し、久徳、中塚氏は自民の34人に加え、公明党県議団6人、無所属2人の計42票を獲得。私が所属する民主・県民クラブの10人は、議長は中川雅子氏、副議長は私(高橋徹)に投票しましたが、及びませんでした。



久徳大輔 新議長 中塚周一 新副議長

2024年度 県議議会人事が決まりました!

私は「監査委員」に就任。所属常任委員会は「文教委員会」。

5月臨時会では、県監査委員2人の選出も行われ、私と福島恭子氏(自民党県議団)が議会選出の監査委員に選任されました。監査委員は、財務や法務などの知識に加え、事業の費用対効果の検証などでは経営感覚が求められる専門性が高い仕事です。職責をしっかりと果たせるよう、研鑽を重ね、精一杯務めたいと思います。

また、所属委員会の配属も決定し、私は、今年度は「文教委員会」の委員を務めることになりました。文教委員会では、県教育委員会が所管する事務や事業について執行部から説

明を受け、個々の議員や所属する会派の問題意識に基づき、質問、提案、要望などを行います。かつて47都道府県の中で40位台と低迷していた小学生、中学生の学力は全国平均並みに改善していますが、不登校問題、先生の働き方改革、GIGAスクール構想(※)の進展、県立高校の再編問題、部活動の地域移行など、教育行政における課題は山積みです。生徒・児童や学校で働く先生方、地域の保護者・関係者など「現場の声」をしっかりと聞き、課題解決に繋がる前向きな議論を行っていききたいと思います。

(※)GIGAスクール構想：児童生徒向けの1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化された創造性を育む教育を、全国の学校現場で持続的に実現させる構想のこと

WHAT IS 監査委員?

監査委員とは

監査委員は、地方自治法により、知事から独立した執行機関として設置されています。監査委員は、他の委員会と異なり、独任制の執行機関としての役割が与えられており、県の財務に関する事務の執行や、経営に係る事業の管理の監査のほか、一般行政事務の監査なども行います。監査は、これらの事務の適法性・能率性の確保を図る観点から行われ、その結果は、議会に報告され、ホームページ等で公表されます。

監査委員の選任

監査委員は、知事が、議会の同意を得て選任します。人格が高潔で、地方公共団体の財務管理、事業の経営管理その他行政運営に関し優れた識見を有する者と、議員の中から、岡山県ではそれぞれ2名・計4名が選任されています。

岡山県議会「6月定例会」報告

6月定例会岡山県議会では、我が会派の代表質問に秋山正浩議員が登壇しました(会派の持ち時間の関係で私の登壇機会はなし)。代表質問のうち、県の少子化対策の目玉事業の一つである「おかやま出会い・結婚サポートセンター事業」に係る質問など、私が原稿を起草した質問を中心に、主要な質疑応答を抜粋して紹介します。

1. おかやま出会い・結婚サポートセンターについて

質問の背景 少子化の主要因である未婚化、晩婚化の進行への対策として、県は、結婚を希望する若者を支援する拠点として「おかやま出会い・結婚サポートセンター」を設置し、結婚を希望する若者の希望をかなえる環境づくりを進めている。同センターに会員登録すれば、出会いを希望するお相手を、「おかやま縁結びネット」というシステムを通じて自ら探すことができる。引合せや交際にあたっては、結びすと(むすびす

と)というボランティアの立会人が二人の関係構築のサポートを行う。本来は会員登録に1万円かかるが、昨年度から無料キャンペーンを実施中(本年度末までの予定)。その効果もあり、会員数、引合せ数等が急増している(成婚までは年単位の時間がかかるため、キャンペーン効果が出てくるのはこれからか?)。成婚数を増やすだけでなく、結婚に向けた機運の醸成を図ることも事業目的の一つに挙げている。

質問 おかやま縁結びネットは、「結びすと」というボランティアの立会人が仲介役・相談役を務めるところに最大の特徴があるが、会員数の急増に対し、その確保が追いついていないと聞く。役割の性質上、一定の人生経験や信頼に足る人柄などが求められるが、「結びすと」の確保、育成にどう取り組むのか?

答弁 会員数の増加により、対応が過密になる中、引合せには、日程調整を含めた当日のコーディネートやその後のフォローなど1組ずつ丁寧な対応が必要であり、結びすとの一層の確保やスキルアップが課題になっている。このため、各種広報媒体での募集や民生委員等の会議等で制度の説明を行うとともに、新任者研修や結びすと同士の交流等を通じた資質向上に取り組んでいる。(知事)

質問 おかやま縁結びネットを、単なるマッチングシステムと捉えている人が大半で、「結びすと」による丁寧なサポート体制についての認知が低い。「結びすと」という仲介者が入ることによるサービスの効果や魅力をわかりやすく伝える努力が必要だ。PR動画の作成やマスメディアの活用など、広報活動の強化についての所見を伺う。



秋山正浩 議員

答弁 結びすとによる引合せを利用された方の多くから満足との評価を得ており、こうした点を広く周知することが肝要だと考えている。今年度は、ホームページのリニューアルやインターネットによる戦略的な広報等を通じて、縁結びネットの一層のPRや結婚への関心の喚起を図ることとしており、その中で、結びすとによる手厚いサポートや安心感といった本県システムの特徴や魅力をわかりやすく発信していきたい。(知事)

2. 港湾の液状化被害の想定について

質問 県の発表した「南海トラフ巨大地震による液状化危険度分布図」では、水島港、宇野港及び岡山港は液状化の危険度は極めて高いと想定されている。県は、港湾の重要機能が最低限維持できるようBCP(※)を策定しているが、能登半島地震を踏まえ、今後、南海トラフ地震など大きな地震が発生した場合の港湾での液状化被害の想定と対策について伺う。

答弁 南海トラフ巨大地震が発生した場合、水島港、宇野港及び岡山港では、液状化により広範囲で陥没や段差等の被害が発生すると想定されるため、各港では、地震発生後も船舶が係留できるよう耐震強化岸壁を整備している。今後とも、訓練等を重ねて港湾BCPの実効性を高めることにより、応急復旧体制の強化を図り、緊急物資輸送等の重要機能の確保に努めたい。(知事)

(※)BCP害などの緊急事態における企業や団体の事業継続計画(Business Continuity Planning)のこと。自然災害やテロ、システム障害など危機的な状況に遭遇した時に損害を最小限に抑え、重要な業務を継続し早期復旧を図ることを目的に策定される。

6月定例会の代表質問の動画はこちらから▶



おかやま縁結びネットの詳細はこちらから▶



「南海トラフ巨大地震による液状化危険度分布図」はこちらから▶



2024年10月岡山県知事選 伊原木隆太知事、4選出馬を表明!

6月定例会で、伊原木隆太知事は、自民党岡山県議団の小野泰弘県議の代表質問に答え、「県のさらなる発展のため、4期目に向け挑戦することを決意した」と述べ、今年10月に行われる岡山県知事選挙に立候補する意向を表明しました。7月3日現在、知事選に立候補を表明しているのは伊原木氏だけです。知事選は10月10日に告示され、10月27日に投票が行われます。



伊原木知事の立候補表明におけるコメント要旨

【これまでの実績の振り返り】

- 知事に就任以来、好循環の起点となる教育再生、産業振興を2本柱に県政の舵取りに邁進してきた。
- 教育分野では、知事就任時に全国40位台に低迷していた小中学校の学力は全国平均並みまで回復、定着している。
- 産業分野では新規立地企業などの投資額が累計9千億円を超えるなど、実感いただける成果が現れている。
- 西日本豪雨で大きな被害があった河川の改良復旧事業が昨年度に完了し、節目を迎えることができた。
- 新型コロナ禍も、適切に感染を抑えこむことができた。

【今後の重点取り組み課題】

- 南海トラフ地震や新たな感染症への備え、加速化する人口減少、中山間地域の公共交通の維持などの課題に触れたうえで、なかでも「少子化対策はこれからの数年間がトレンドを反転させるラストチャンス。正念場だ」と強調。「県政に責任を持つ立場で、その務めを果たしたい」と述べた。

高橋とおる 活動報告

「全国植樹祭 2024岡山」に参加しました。

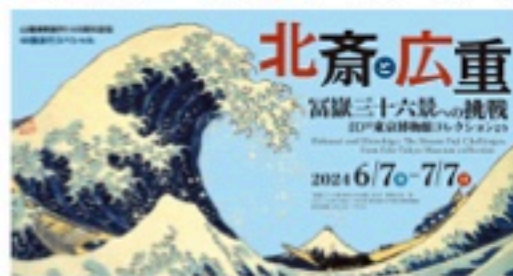
5月26日、天皇、皇后両陛下をお迎えるのビッグイベント「全国植樹祭2024岡山」に参加し、別招待者として式典会場内で植樹をさせていただきました。私たちが植えた少花粉ヒノキの苗は、真庭市か津山市のどちらからに移され、育てられるそうです。



少花粉ヒノキを植樹

岡山県立美術館で、葛飾北斎&歌川広重コレクションを鑑賞。

6月13日、県立美術館で北斎と広重の企画展を鑑賞し、北斎の構図の迫力と広重の情緒豊かな描写を堪能。北斎の代表作「波間の富士」や「赤富士」に感動しつつ、広重の雨の描写の趣の深さに魅入られました。



その他の活動報告



- 4月22日 作州・加茂郷フルマラソン全国大会(フルマラソンを3時間48分21秒で完走)(津山市)
- 5月9日～10日 地方議員セミナー「人口減少対策・地方創生特別研修」を受講(東京)
- 5月10日 崎田恭平元日南市長によるセミナー「官民連携のコツ」を受講(東京)
- 5月16～17日 日経XTECHnext関西2024に参加し、生成AIに関する講演、トークセッション等を数本拝聴(大阪)
- 6月8日 UAゼンセン全国議員団会議(東京)
- 6月29日 岡山市戦没者追悼式 など(その他、オンラインセミナーも受講多数)